

## ロールプレイングに関する研究(Ⅲ)

### —学校カウンセラー養成定期研修における前・中・後期の比較—

昭和50年度学校カウンセラー養成定期研修のカウンセリング実習におけるロールプレイングについてカウンセラー発言とチェックリストの分析を行なった。発言は簡単な受容を中心とする非指示の範ちゅうに集中していくが、くり返しや明瞭化については非常に少ない。チェックリストでは自己評価も高くなっていくが、共感的理解、特に気持が通じているかどうかということについては低く、また、クライアントとのずれの大きいのは、がまんをして話をきく、気にさわることはいわないなどであった。

#### I はじめに

ロールプレイングは、人間関係についての体験的学習法として、教育相談の研修にいろいろなかたちでとりいれられている。昭和50年度学校カウンセラー養成定期研修では、延20日間の全日程のうち延6日間がカウンセリング実習としてロールプレイングにあてられた。

ロールプレイングでのねらいは、相手の話すことを「聴く」ことを第一とし、さらに「聴い」たことをどのように相手に返すかということであるが、そこで示されるものが体験過程として過ぎていくものであるから、それらをどうとらえ、どう評価するかということは極めて困難なことである。

ここにまとめたものは、昭和48年度以来続けてきているものにひきつづき追跡的にまとめたものである。まとめるためのねらい、手続き、方法などはこれまでのものを踏襲している。これまでは、3日間のロールプレイング実習期間の前後の比較<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>ということが中心であったが、ここでは研修の全日程の前中・後期について、カウンセラーの発言分析、カウンセラーの態度についてのチェックリストによって検討したものである。

#### II 目 的

昭和50年度学校カウンセラー養成定期研修で行なったカウンセリング実習のロールプレイング(カウンセリング場面)における発言分析およびチェックリストを分析し、その変化について考察する。

#### III 方 法

##### 1 資 料

(表1) 個人別カウンセラー範ちゅう分類表

カテゴリー		回数	1			2			3			4		
			I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
リ イ ド	場面構成 (XCS)													
	話題の選択 (XFT)										1 2.6			
	直接的質問 (XDQ)	2 11.1			8 28.4	3 12.5		19 27.6	2 4.6		3 7.7	3 17.6	2 4.1	
	非指示的リード (XND)										1 2.6			
	小計	2 11.1			8 28.4	3 12.5		19 27.6	2 4.6		5 12.8	3 17.6	2 4.1	
感情・非指示	簡単な受容 (XSA)	4 22.2	47 92.2	35 70.0	13 46.4	13 54.2	71 93.4	39 56.6	39 90.8	56 83.6	24 61.5	9 52.9	40 81.6	
	くり返し (XRC)	a		1 2.0									3 6.1	
		i		1 1.9	7 14.0	1 3.6	3 12.5	3 4.0	2 2.9	2 4.6	7 11.1	1 2.6	1 5.9	2 4.1
	明瞭化 (XCF)	a												
		i		3 5.9	4 8.0		1 4.2						1 5.9	1 2.0
	小計	4 22.2	51 100.0	47 94.0	14 50.0	17 70.8	74 97.4	41 59.5	41 95.4	63 94.0	25 64.1	11 64.7	46 93.9	
	半指示	解釈 (XIT)			2 4.0	1 3.6		1 1.3	3 4.3			1 2.6	1 5.9	
指 示	是認と激励 (XEA)	4 22.2			2 7.2		1 1.3	4 5.8						
	情報提供 (X LX)	7 38.9		1 2.0	1 3.6			1 1.4		1 1.5	1 2.6	1 5.9	1 2.0	
	行動の提示 (XCA)					3 12.5								
	説得 (XPS)	1 5.6			2 7.2						2 5.1			
	否認・批判 (XDC)													
	小計	12 66.7		1 2.0	5 18.0	3 12.5	1 1.3	5 7.2		1 1.5	3 7.7	1 5.9	1 2.0	
	周 辺	面接の終結 (XEC)							1 1.4		1 1.5			
関係の終結(XEC)														
社会的な話 (XFD)										2 3.0	5 12.8			
分類反応 (XUN)						1 4.2						1 5.9		
小計						1 4.2		1 1.4		3 4.5	5 12.8	1 5.9		
合計		18 100.0	51 100.0	50 100.0	28 100.0	24 100.0	76 100.0	69 100.0	43 100.0	67 100.0	39 100.0	17 100.0	49 100.0	

5			6			7			8			9		
I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
									2					
									60					
2	3		7	2		1	4	1	9			5		
16.7	9.1		17.5	4.1		2.4	7.0	3.4	27.3			13.5		
												1		
												27		
2	3		7	2		1	4	1	11			6		
16.7	9.1		17.5	4.1		2.4	7.0	3.4	33.3			16.2		
	21	105	9	42	45	33	49	20	14	14	30	27	35	14
	63.6	92.0	22.5	85.7	84.9	78.6	85.9	66.9	42.4	63.6	81.9	73.0	92.1	56.0
					2	1							1	2
					3.8	2.4							2.7	8.0
1	4	4	7	3	4	3	3	1		1	3	2		2
8.3	12.1	3.5	17.5	6.1	7.6	7.2	5.2	3.4		4.5	8.1	5.4		8.0
														2
														8.0
		2	1	2	1	2	1	1				1	2	4
		1.8	2.5	4.1	1.9	4.7	1.9	3.4				2.7	5.2	16.0
1	25	111	17	47	52	39	53	22	14	15	33	30	38	24
8.3	75.7	97.5	42.5	95.9	98.1	92.9	93.0	75.9	24.4	68.3	89.2	81.1	100.0	96.0
			5		1				6		2			
			12.5		1.9				18.2		5.4			
1		1	3			2		3			2	1		
8.3		0.9	7.5			4.7		10.4			5.4	2.7		
1	3		3							5				
8.3	9.1		7.5							22.7				
1								1						
8.3								3.4						
5			3							1				
41.7			7.5							4.5				
1			2											
8.3			5.0											
9	3	1	11			2		4		6	2	1		
75.0	9.1	0.9	27.5			4.7		13.8		27.2	5.4	2.7		
		1												1
		0.9												4.0
	2	1						2						
	6.1	0.9						6.9						
									2	1				
									6.0	4.5				
	2	2						2	2	1				1
	6.1	1.8						6.9	6.0	4.5				4.0
12	33	114	40	49	53	42	57	29	33	22	37	37	38	25
1														

(表1) つづき

[illegible]

(表 1) つづき

15			16			17			18			19		
I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
				1 2.1		1 4.8								
4 8.3	6 3.15	1 6.6	11 16.9			1 4.8	1 8.3		2 10.0	5 2.50		5 15.6	2 2.00	
								1 1.7						
4 8.3	6 3.15	1 6.6	11 16.9	1 2.1		2 9.5	1 8.3	1 1.7	2 10.0	5 2.50		5 15.6	2 2.00	
39 81.3	11 57.9	9 60.3	35 53.9	43 89.5	71 87.7	15 71.3	6 50.0	52 88.1	12 60.0	7 3.50	26 89.7	15 46.9	2 2.00	37 90.1
	1 5.3		4 6.2	3 6.3	6 7.4		1 8.3			1 5.0				
	1 5.3	1 6.6	7 10.8		4 4.9	1 4.8	3 2.50	1 1.7	1 5.0	3 1.50	2 6.9		2 2.00	1 2.4
			1 1.5											1 2.4
			5 7.7	1 2.1			1 8.3	1 1.7		2 10.0	1 3.4		2 2.00	1 2.4
39 81.3	13 68.5	10 66.9	52 80.1	47 97.9	81 100.0	16 76.1	11 91.7	54 91.5	13 65.0	13 65.0	29 100.0	15 46.9	6 6.00	40 97.6
						1 4.8						2 6.3		1 2.4
1 2.1		2 13.3	1 1.5						1 5.0			1 3.1	1 10.0	
								1 1.7		2 10.0		5 15.6		
		1 6.6				1 4.8			2 10.0				1 10.0	
3 6.2		1 6.6										4 12.5		
4 8.3		4 26.5	1 1.5			1 4.8		1 1.7	3 15.0	2 10.0		10 30.2	2 2.00	
			1 1.5			1 4.8		1 1.7	1 5.0					
1 2.1								2 3.4						
									1 5.0					
1 2.1			1 1.5			1 4.8		3 5.1	2 10.0					
48 100.0	19 100.0	15 100.0	65 100.0	48 100.0	81 100.0	21 100.0	12 100.0	59 100.0	20 100.0	20 100.0	29 100.0	32 100.0	10 100.0	41 100.0



(表1) つづき

		20			21			22			合 計		
		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
リ イ ド	X C S				1 4.3						1 0.1		
	X F T							1 2.3			5 0.5	2 0.3	
	X D Q			1 1.3	5 21.7		3 4.4	3 6.8	2 4.7	1 4.3	109 11.3	42 5.5	17 1.4
	X N D			1 1.3			1 1.5			1 4.3	3 0.3	3 0.4	6 0.5
	小 計			2 2.6	6 26.7		4 5.9	4 9.1	2 4.7	2 8.6	118 12.3	47 6.1	23 1.9
感情・非 指示	X S A	50 96.2	62 95.4	65 83.3	2 8.7	6 76.0	58 85.2	28 63.6	32 76.1	12 52.2	625 65.0	595 77.5	1015 82.9
	X R C	a		6 7.7		1 12.0	1 1.5		1 2.3	1 4.3	8 8.0	23 3.0	28 2.3
		i	2 3.1	5 6.4		1 12.0	1 1.5		4 10.0	1 4.3	34 3.5	51 6.6	64 5.2
	X C F	a							1 2.3		4 0.4	2 0.3	7 0.6
		i					2 2.9	2 4.5		3 13.1	23 2.4	18 2.3	37 3.0
	小 計	50 96.2	64 98.5	76 97.4	2 8.7	8 100.0	62 91.2	30 68.2	38 90.7	17 74.0	694 72.2	689 89.7	1151 94.0
	X I T		1 1.5								19 2.0	4 0.6	8 0.7
	指 示	X A E	1 1.9				2 3.0		1 2.3		24 2.5	2 0.3	9 0.7
		X L X			1 4.3			5 11.3		4 17.4	36 3.8	14 1.8	16 1.3
		X C A			1 4.3			3 6.8	1 2.3		8 0.8	5 0.7	2 0.2
		X P S			8 34.8			1 2.3			26 2.7	1 0.1	2 0.2
		X D C			4 17.4						11 1.1		
		小 計	1 1.9		14 60.9		2 3.0	9 20.4	2 4.6	4 17.4	105 10.9	22 2.9	29 2.4
		X E C			1 4.3						6 0.6		5 0.4
周 辺	X E S												
	X F D	1 1.9						1 2.3			16 1.7	3 0.4	8 0.7
	X U N										3 0.3	3 0.4	
	小 計	1 1.9			1 4.3			1 2.3			25 2.6	6 0.8	13 1.1
	合 計	52 100.0	65 100.0	78 100.0	23 100.0	8 100.0	68 100.0	44 100.0	42 100.0	23 100.0	961 100.0	768 100.0	1224 100.0

## (1) 逐語記録

6月10日の最初（Ⅰ），7月10日の最後（Ⅱ），11月12日の最後（Ⅲ）のロールプレイングそれぞれ10分，5分，10分について逐語記録をとり発言分析の資料とした。分析は3回分の資料のまとまった22名について行なった。

ロールプレイングの実習のときには「聴く」ということを中心に，4グループに分かれて行なったが，グループは月ごとの単位で編成替えを行なった。逐語記録をとる実習のときには，その開始，終了共に特に限定しなかった。

発言分析はスナイダー，W・U・<sup>3)</sup>，シーマン，J・<sup>4)</sup>の研究によるカウンセラー範ちゅうに基づいて行なった。分析に当っては共同研究者6名が同一の資料について検討し合った後，3名ずつ2グループに分かれ，各11名ずつの資料について分析を行なった。

## (2) チェックリスト

6月10日（Ⅰ），12日（Ⅱ），7月10日（Ⅲ），9月4日（Ⅳ），11月12日（Ⅴ）の5回について，ロールプレイング終了直後にチェックリスト（表5）を，カウンセラーの自己評価とクライアントからのカウンセラー評価を行なった。内容は，自己一致，無条件の尊重，共感的理解について各5項目，計15項目である。集計に当たっては，望ましき方向を一定にして，7点法で行なった。

## 2 研修の概要

### (1) 対象 昭和50年度学校カウンセラー養成定期研修員 25名

（小学校教員7名，中学校教員12名，高等学校教員4名，特殊学校教員2名）

### (2) 日程

（表2） 昭和50年度学校カウンセラー養成定期研修日程（G・Cのみ）

月 日	5	6	7	9	10	11	12
	21. 22. 23	10. 11. 12	8. 9. 10	3. 4. 5.	7. 8. 9	10. 11. 12	3. 4
午 前	G <sub>1</sub> G <sub>3</sub> G <sub>5</sub>	C <sub>4</sub>	C <sub>5</sub> C <sub>7</sub>		C <sub>10</sub>		
午 後	G <sub>2</sub> G <sub>4</sub> G <sub>6</sub>	<sup>0</sup> C <sub>1</sub> C <sub>3</sub>	C <sub>6</sub> <sup>0</sup> C <sub>8</sub>	C <sub>9</sub>	C <sub>11</sub>	<sup>0</sup> C <sub>12</sub>	

C—カウンセリング実習

G—グループ体験

○—逐語記録

●—チェックリスト実施

## Ⅳ 結果と考察

### 1 発言分析について

各回の発言分析を個人別にまとめたのが（表1）である。10分，5分という短い時間のため，その人らしさは十分にあらわれにくかったかもしれない。個人差は大きい，簡単な受容（XSA）では全

くない場合と、ほとんど全部がそれに終始したものとがある。これらはクライアントによってそういう差がでてくるのか、カウンセラーロールをとるものの人柄によるものか、今後の検討が必要とされる。

合計についてみるとカテゴリーでは感情・非指示が多くなり、リード、指示が少なくなってくる。これは前回や前々回のように3日間の前後でもみられたことであり、研修の期間をとおしても同じようにみられた。<sup>5)</sup>リードでは特に直接的質問が少なくなり、感情・非指示では簡単な受容が多くなっている。くり返しや明瞭化も少しずつではあるが多くなってきているが、適切なくり返し、正しい明瞭化はほと

(表3) 合計についての $X^2$ 検定(\* $P < 0.05$ , \*\* $P < 0.01$ )んどみられない。

$X^2$		I・II	II・III	I・III
範ちゆう				
リード	$2 \times 4$	1.795	6.079	18.620 **
非指示	$2 \times 5$	12.654 *	5.192	4.183
くり返し×明瞭化	$2 \times 2$	6.181 *	3.395	0.929
くり返し(a×i)		1.981	0.008	1.903
明瞭化(a×i)		0.239	0.397	0.015
指示	$2 \times 5$	15.521 **	5.347	9.697 *
周辺	$2 \times 4$	5.205	8.902 *	2.186
小計	$2 \times 5$	85.766 **	26.085 **	199.818 **

傾聴するという点に重点をおいたため、うなずきながら耳を傾けるということで簡単な受容が多くなったと思われるが、くり返しや明瞭化ということになると単に傾聴ということから一歩進んだトレーニングの場が設定されなければならないと考えられるのだが、今後の課題として考えなければなら

個人別 $X^2$ 検定

(表4) (\* $P < 0.05$ , \*\* $P < 0.01$ )ばならない。

$N$	$X^2$	I・III
1	4.2761 **	
2	37.386 **	
3	30.298 **	
4	13.535 **	
5	10.4054 **	
6	37.333 **	
7	5.198	
8	24.532 **	
9	6.591	
10	12.087 *	
11	3.251	
12	6.855	
13	2.327	
14	8.743	
15	3.690	
16	17.783 **	
17	3.582	
18	11.842 *	
19	25.982 **	
20	4.339	
21	58.768 **	
22	0.669	
23	6.895	

解釈については数も少なく、また発言としてもできにくいものかもしれない。

指示については是認、激励の部分が多いが、これはクライアントに同情的なほげましのことが多いためである。

周辺については、短い時間の前後に場面構成や面接の終結について一定の枠を設けなかったため、そのロールごとに差があらわれたものである。

各カテゴリーの小計についての比率の差を $X^2$ 検定によったものが(表3)である。各カテゴリーについてみると、リードではIとIIIに差がみられるが、IとII、IIとIIIとでは差がみられない。非指示については、IとIIには差がみられるが、IIとIII、IとIIIでは差がみられない。くり返し、明瞭化及びそれぞれの適切、正しいものについては差がみられなかった。指示ではIとIIに差が見られるが、IIとIII、IとIIIとでは差がみられない。周辺についてはいずれも差はみられない。

各小計の比率についてはいずれの回とも差がみられる。すなわち、各カテゴリー内ではその傾向に大きな差はないが、各カテゴリーの傾向の差はIとII、IIとIII、IとIIIとにいずれも大きくみられた。

IとIIとでは約1か月の間があり、IIとIIIでは約4か月の間があるが、



ⅡとⅢでは研修も後期になり、研修の内容にも慣れてきたことで大きな変化はみられないのかもしれない。体験的なものはどうしても初期には印象も強く、またその影響するところも大きいのであろうが、ある程度続くと当初のような変化がそのまま続くと考えすることはできないと思われる。体験の深まりを要求する研修の中期以後のあり方が今後の課題となるであろう。

個人別に各カテゴリーの比率についてⅠとⅢとの差をみたのが（表4）である。Ⅱは時間的にも短かく発言数も少ないので略した。約半数の12名が有意な差を示している。これはいずれも非指示が増加し、他が減少していることからくるものである。

Ⅲでは非指示が90%以上を占めるものが17名である。最も低いもので66.9%であるから発言のほとんどは非指示に集中していることになる。

## 2 チェックリスト

カウンセラーロールを遂行してどのようにやれたかということについてプレイヤー自身の評価とクライアントロールのプレイヤーからの評価を（表5）の15項目のチェックリストによって行なった。

記入したのは（表2）のように合計5回実施した。実施のときは望ましき方向をランダムとしたが、整理のときは一定にして望ましい方に向かって7点法によって集計を行なった。

（表5） カウンセラーについてのチェックリスト（自己評価）

いまやったことについて、あなたの感じたことをありのまま記入してください。

記入例      はい ————— 0 ————— いいえ

	はい	いいえ	
1 がまんをして話をきいた。	—————	—————	C
2 相手を自分の考え通りにしようとした。	—————	—————	U
3 相手の、口ではいえないような気持も理解できた。	—————	—————	E
4 相手の気にさわるようなことはいわないようにしていた。	—————	—————	C
5 私は相手に暖かく接していた。	—————	—————	U
6 相手のいったことを、時には違った意味に解釈していた。	—————	—————	E
7 私は自分の気持をごまかさなかった。	—————	—————	C
8 相手の気持がどうであれ、私の態度は変らなかった。	—————	—————	U
9 相手のいうことがよくわかった。	—————	—————	E
10 正直に話ができた。	—————	—————	C
11 相手に自分の意見をおしつけていた。	—————	—————	U
12 私の気持は相手に通じた。	—————	—————	E
13 自分の考えを出しすぎた。	—————	—————	C
14 時によって冷淡であったり、暖かく接したりした。	—————	—————	U
15 相手を自分の立場で解釈していた。	—————	—————	E

注 C—自己一致、U—無条件の尊重、E—共感的理解

クライアントからの評定によるものは、内容は同じく表現を変えたものを用いた。

なお集計はカウンセラーロール、クライアントロールからの資料がそろっている19名について行なった。

カウンセラー自身の評価の平均得点を個人別にまとめたものが(表6)である。各回とも自己一致の得点が高く、無条件の尊重と共感的理解とでは個人による差が大きい。全般に4以上の得点を示しているものが多く、肯定的な自己評価がみられる。4以下のものは、Cでは1で1名であとにはみられない。UではI(5名)、II(2名)、III(2名)、IV(1名)、V(0)となって回を追うて少なく、Vでは0となる。EではI(6名)、II(3名)、III(6名)、IV(2名)、V(3名)と最も多いが回を追うて少なくなっている。また、合計ではI(5名)、II(0)、III(3名)、IV(0)、V(0)となって非常に高くなっている。

カウンセラー自身の評価の平均得点と標準偏差を各項目別にまとめたものが(表7)であり、それをグラフにまとめたものが(図1)である。

領域別にみると、自己一致、無条件の尊重、共感的理解の順に得点は高く、各回を通じての変化の様相は全く同じく、平行状態で変化している。IからIIへは共通して高くなり、IIIでは共通して低くなり、IV、Vではそれぞれに高くなっている。そしてVで最も高い、IIはIから3日間の初めてのロールが行なわれての最終回であったため、連続した訓練の最終回ということであつたらうか。IIIはその後約1か月の間をおいて行なったもので、初めての体験から離れて自己評価がなされたものであろうか。IV、Vは研修の中期、後期で体験の深まりを自分なりには感じていった時期であつたらうか。

また、自己一致は自分で自分をみつめた姿として比較的肯定的にとらえられるのかもしれないが、無

(表6) 個人別類型別平均得点(C—自己一致、U—無条件の尊重、E—共感的理解)

回 No. 領域	I				II				III				IV				V			
	C	U	E	計	C	U	E	計	C	U	E	計	C	U	E	計	C	U	E	計
1	4.6	4.6	4.8	4.67	6.0	5.6	5.8	5.80	6.0	6.4	6.2	6.20	7.0	5.8	6.4	6.40	6.6	5.4	6.2	6.07
2	4.2	3.8	3.6	3.80	4.8	4.8	4.6	4.73	3.2	3.8	4.4	3.80	5.8	5.0	5.0	5.27	5.4	5.2	4.8	5.13
3	5.8	4.8	4.8	5.13	4.4	3.8	4.2	4.13	4.6	4.0	4.4	4.33	5.4	5.0	4.4	4.93	5.2	4.6	4.2	4.67
4	4.0	3.0	3.6	3.53	6.0	6.0	4.2	5.40	4.0	4.0	3.8	3.93	5.4	4.6	3.6	4.53	4.8	4.2	4.0	4.33
5	4.6	4.0	4.6	4.40	5.8	5.2	4.2	5.07	3.6	4.4	5.2	4.40	4.8	5.2	5.6	5.20	6.6	5.2	6.0	5.93
6	4.8	4.4	4.0	4.40	5.2	3.8	5.8	4.93	6.6	4.8	4.6	5.33	6.2	5.6	5.6	5.80	7.0	7.0	6.4	6.80
7	3.8	4.0	4.0	3.93	4.2	4.4	4.0	4.20	3.6	4.2	3.8	3.87	5.2	4.8	5.4	5.13	5.0	4.2	4.2	4.47
8	4.0	3.6	4.0	3.87	4.6	4.8	4.4	4.60	4.8	4.4	4.4	4.53	5.0	4.4	4.4	4.60	5.2	5.2	4.2	4.87
9	5.8	6.2	4.6	5.53	6.4	6.8	6.6	6.60	6.4	5.8	6.2	6.13	6.4	5.8	5.8	6.00	5.4	6.2	5.4	5.67
10	4.8	5.0	3.8	4.53	5.2	4.4	6.6	5.47	5.0	4.8	3.6	4.47	5.2	5.4	4.8	5.13	6.0	5.8	4.2	5.33
11	6.6	6.6	5.8	6.33	6.8	7.0	6.0	6.60	7.0	6.6	5.8	6.47	5.2	4.6	3.0	4.27	6.2	6.0	3.2	5.13
12	4.8	5.2	5.0	5.00	5.0	5.2	4.2	4.80	5.4	5.4	5.0	5.27	6.4	5.0	4.4	5.27	6.8	4.8	6.0	5.87
13	4.4	4.0	3.4	3.93	6.2	5.0	4.6	5.27	5.4	5.0	4.2	4.87	5.6	6.0	5.6	5.73	5.8	4.8	4.8	5.13
14	5.0	5.2	2.8	4.33	6.4	4.4	3.6	5.13	5.4	4.6	3.6	4.53	6.0	5.2	4.4	5.20	5.0	5.2	3.4	4.55
15	4.8	4.4	3.4	4.20	5.4	4.2	3.8	4.47	5.0	3.4	3.8	4.07	5.0	5.0	4.4	4.80	4.4	5.2	4.6	4.73
16	4.6	3.6	4.0	4.07	5.0	4.4	3.2	4.20	5.6	4.0	4.0	4.53	4.8	3.2	4.6	4.20	6.6	6.4	5.9	6.13
17	4.0	4.4	4.0	4.13	4.2	4.4	4.6	4.40	4.6	5.0	4.4	4.67	4.4	5.6	5.4	5.13	5.6	6.0	6.6	6.07
18	4.4	4.2	4.0	4.20	4.4	4.8	4.8	4.67	4.2	5.0	4.4	4.53	4.6	5.0	4.0	4.53	5.2	5.0	5.2	5.13
19	6.0	3.6	5.0	4.87	5.8	5.4	4.2	5.13	5.8	4.2	3.8	4.60	6.2	5.2	4.4	5.27	6.4	6.6	3.6	5.53

(表7) 項目別平均得点・標準偏差

( ) 内は標準偏差

回 項目		I	II	III	IV	V
自己一致	①がまんして…	5.26 (1.42)	5.89 (1.33)	5.21 (1.73)	5.89 (1.07)	5.89 (1.37)
	④気にさわる…	5.00 (1.52)	4.89 (1.43)	4.89 (1.77)	5.32 (1.66)	5.58 (1.90)
	⑦ごまかす	5.47 (1.01)	5.37 (1.18)	5.21 (1.73)	5.68 (0.92)	5.89 (0.97)
	⑩正直に	4.21 (1.14)	5.68 (1.13)	5.26 (1.48)	5.63 (1.13)	6.05 (1.00)
	⑬考えをだす	3.68 (1.36)	5.00 (1.59)	4.68 (1.56)	5.00 (1.52)	5.32 (1.17)
	小計	4.73 (1.67)	5.37 (1.39)	5.05 (1.64)	5.50 (1.31)	5.75 (1.34)
無条件の尊重	②考え通りに	4.42 (1.43)	5.47 (1.39)	5.16 (1.53)	5.53 (1.39)	5.89 (1.14)
	⑤暖かく	5.00 (1.08)	5.42 (1.09)	4.79 (1.00)	5.42 (1.18)	5.63 (1.13)
	⑧態度が変わる	4.89 (1.07)	4.58 (1.50)	3.95 (1.43)	3.79 (1.54)	4.53 (1.90)
	⑪おしつけた	3.84 (1.72)	5.11 (1.41)	5.11 (1.74)	5.37 (1.42)	5.63 (1.18)
	⑭冷淡・暖か	4.11 (1.02)	4.53 (1.35)	4.63 (1.63)	5.26 (1.21)	5.42 (1.46)
	小計	4.45 (1.37)	5.02 (1.42)	4.73 (1.54)	5.07 (1.51)	5.42 (1.47)
共感的理解	③口でいえない…	4.37 (1.09)	4.53 (1.35)	4.32 (1.52)	4.37 (1.46)	4.58 (1.69)
	⑥違った意味	4.21 (1.61)	4.63 (1.81)	4.47 (1.43)	5.00 (1.56)	4.68 (1.75)
	⑨よくわかる	5.00 (1.17)	5.63 (1.18)	5.21 (1.51)	5.89 (1.33)	6.05 (0.90)
	⑫通じた	4.00 (1.26)	4.89 (1.02)	3.95 (1.10)	4.58 (0.88)	5.11 (0.97)
	⑮自分の立場	3.21 (1.44)	3.84 (1.53)	4.58 (1.63)	4.16 (1.87)	3.89 (1.89)
	小計	4.16 (1.45)	4.71 (1.51)	4.51 (1.49)	4.80 (1.58)	4.86 (1.67)
合計		4.45 (1.52)	5.03 (1.47)	4.76 (1.58)	5.13 (1.49)	5.52 (1.16)

(表8) カウンセラーの自己評価とクライアントの評価とのずれ

回 項目		I		II		III		IV		V	
差		C	D	C	D	C	D	C	D	C	D
自己一致	1	-1.68	12.88	-0.28	8.19	-0.26	12.04	-1.05	12.00	-12.6	11.14
	4	0.32	7.48	0.0	8.37	-0.47	11.45	-0.05	9.85	-0.11	12.25
	7	0.0	6.32	-0.06	8.06	-0.21	8.83	0.42	5.48	0.05	4.80
	10	1.16	9.27	0.17	6.56	-0.25	8.66	0.42	6.63	-0.16	6.24
	13	1.42	8.66	0.56	7.75	0.95	8.60	0.42	10.68	0.53	7.87
	小計	0.09	20.57	0.06	17.46	-0.05	22.43	0.03	20.71	-0.19	15.68
無条件の尊重	2	0.68	8.06	0.44	6.78	0.63	7.48	0.42	8.75	0.0	9.06
	5	0.79	7.28	0.67	6.63	0.84	6.93	0.68	5.74	0.37	7.42
	8	-0.42	8.25	-0.11	7.48	0.53	8.94	1.16	11.84	0.42	12.17
	11	1.00	8.43	1.06	7.14	0.74	9.06	0.58	8.89	0.16	9.22
	14	1.26	8.60	0.72	8.54	0.21	8.94	0.21	8.37	0.11	10.39
	小計	0.66	18.19	0.67	16.43	0.59	18.60	0.61	19.75	0.21	20.30
共感的理解	3	-0.21	6.93	0.11	8.60	-0.16	9.54	-0.16	9.33	0.11	10.95
	6	0.42	8.37	0.50	10.91	0.58	8.66	0.42	9.06	-0.21	9.06
	9	0.32	8.25	-0.22	7.75	-0.16	10.34	-0.11	7.35	-0.53	6.16
	12	0.47	7.68	0.22	8.37	0.53	6.78	0.95	8.12	0.42	6.16
	15	0.26	8.19	0.56	9.49	0.21	10.49	0.16	11.70	0.63	11.49
	小計	0.25	17.66	0.28	20.32	0.20	20.71	0.25	16.58	0.08	21.12
合計		0.34	32.65	0.32	31.43	0.61	36.10	0.30	35.31	0.04	36.50

(C=クライアント評価-カウンセラー評価, D= $\sqrt{\sum d^2}$  d……評価の差)

条件の尊重とか共感的理解になると相手との関係であるから、そこで動く自分というものは、とらえること自体が難かしく、結果的に低く評価されることになるのであろうか。共感的理解の難しさというものがあらためて考えられるのである。

項目別にみるとどの項目もⅠとⅤでは、Ⅴで高くなっている。その途中の変化は項目ごとに異なるけれども最終回には少なくとも最初よりは高くなっているということになる。また、Ⅴで4以下の得点は⑩私の気持は相手に通じた、のⅠ項目だけであるが、これもⅢ、Ⅳでは4以上になっているのにⅤで低くなったもので、逆にいえばいかにそのことが難しいかということを示しているとも考えられる。

その望ましさの方向へ特に大きく変化したものは、⑬自分の考えを出さないようにした。⑪相手に意見を押しつけないようになった。⑩正直に話すようになった。②相手を自分の考え通りにしようとしなくなった。⑮自分の立場で解釈しないようになった、という方向である。

また、あまり変化のなかったものは、⑧自分の態度は変らなかった。⑫私の気持は相手に通じた。③相手の、口でいえないような気持も理解できた。⑥相手のいったことを、時には違った意味に解釈していた。などである。これはまた、いかに難しいかということでもあると考えられる。

共感的理解の領域は平均して低いのであるが、⑨相手のいうことがよくわかったということについてはⅠから得点が高く、この領域では特別なかたちになっている。

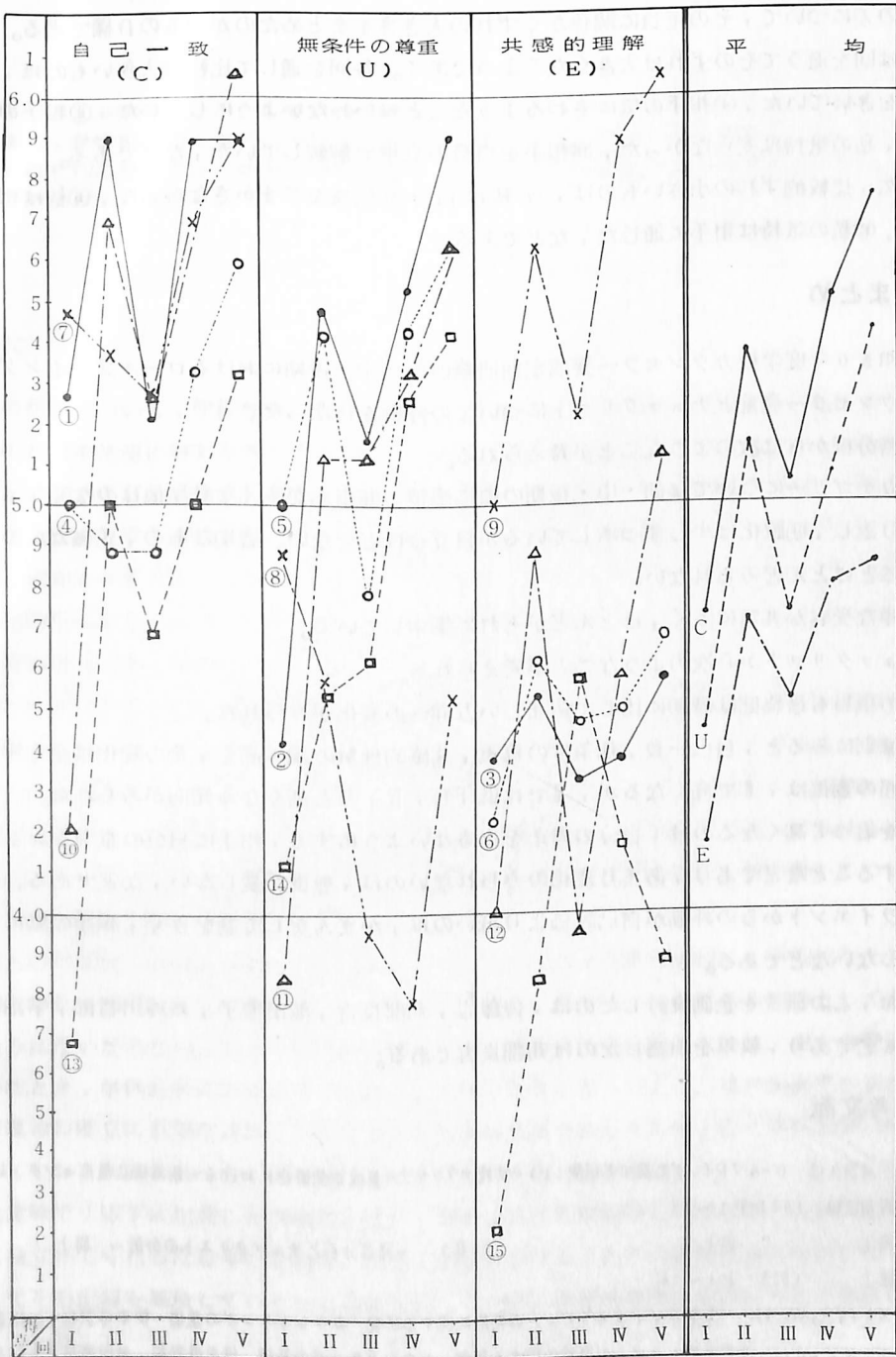
カウンセラーの自己評価の各回の変動を符号検定によってまとめたのが(表9)である。項目ごとに各回の変動が大きいようであるが、ⅠとⅢでは⑩正直に話ができ、ⅡとⅢでは⑫私の気持は相手に通じた、ⅢとⅣでは⑤私は相手に暖かく接した、ⅣとⅤでは差のあるものはみられず、ⅠとⅤでは②相手を自分の考え通りにしようとした、⑩正直に話ができ、⑩相手に自分の意見を押しつけた、⑬自分の考えを押しつけた、⑭時によって冷淡であったり、暖かく接したりした、の5項目で、いずれも望ましい方向への変化であった。

(表9) カウンセラー自己評定の各回の差 (符号検定 \*  $P < 0.05$ )

項目 回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
ⅠとⅡ										*					
ⅡとⅢ												*			
ⅢとⅣ					*										
ⅣとⅤ															
ⅠとⅤ		*								*	*		*	*	

クライエントロールからの評価と自己評価についての差をまとめたものが(表8)である。クライエントからの評定が全般に高く、それは各回とも似たような傾向である。カウンセラーの評価が高いのはⅠ(4項目)、Ⅱ(4項目)、Ⅲ(6項目)、Ⅳ(4項目)、Ⅴ(5項目)で、領域では自己一致の項目に多くみられる。

これを項目別にみると比較的各回に共通しているものとして①がまんして話をきいていた、④相手の気にさわるようなことはいわないようにしていた、③相手の、口でいえないような気持も理解できた、⑨相手のいうことがよくわかった、がある。これらはカウンセラーの自己評価は高いがクライエントからは低く評価されているからこれからの参考としなければならない。これらが比較的共通していることに問題が



(図1) 項目別, 領域別カウンセラー自己評価の変化



あるのであろう。

この差について、その正負に関係なくずれの大きさをまとめたのが表8のD欄である。全体の傾向としては回を追うてそのずれは大きくなるようである。各回を通して比較的大きいものは、①がまんをして話をきいていた、④相手の気にさわるようなことはいわないようにしていた、⑧相手の気持がどうであれ、私の気持は変らなかった、⑯相手を自分の立場で解釈していた、などである。

また、比較的大きいものは、⑦私は自分の気持をごまかさなかった、⑤私は相手に暖かく接した、⑫私の気持は相手に通じた、などである。

## V まとめ

昭和50年度学校カウンセラー養成定期研修の前・中・後期におけるロールプレイングについて、そのカウンセラー発言とチェックリストについての分析を行なった。

発言分析からは次のようなことが考えられる。

- ①各カテゴリーについては前・中・後期の順に感情・非指示が多くなり、他は少なくなっている。
- ②くり返し、明瞭化は少しずつ増しているが目立つほどでない。適切なもの、正確なものということになるとほとんどみられない。

- ③簡単な受容が非常に多く、ほとんどがそれに集中している。

チェックリストから次のようなことが考えられる。

- ①どの項目も最終回は最初に比して望ましい方向への変化がみられた。
- ②領域別にみると、自己一致、無条件の尊重、共感的理解の順に高く、その変化は全く平行している。
- ③各回の変化は、Ⅱで高くなるが、Ⅲでは低下し、Ⅳ、Ⅴと高くなる傾向がみられた。
- ④回を追って高くなるのは、自分の考えを出さないようにする、相手に自分の意見をおしつけないようにすることなどであり、あまり変化のみられないのは、態度が変わらない、などである。
- ⑤クライアントからの評価が自己評価より低いのは、がまんをして話をきく、相手の気にさわることをいわないなどである。

なお、この研究を企画検討したのは、佐藤忠、荻部良吉、池田要子、長谷川哲郎、宇治睦郎、後藤駿介の6名であり、執筆を担当したのは荻部良吉である。

## 参考文献

- 1) 三浦良久他 ロールプレイングに関する研究(Ⅰ)-学校カウンセラー養成定期研修における-新潟県立教育センター研究集録 第7集 教育相談編 1974 P1~12
- 2) 同上 同上 (Ⅱ) -発言分析とチェックリストの分析- 同上 第8集 同上 1975 P1~14
- 3) スナイダー、W. U. 非指示サイコセラピイの性格に関する研究 カウンセリングの基礎 伊東博訳編 誠信書房(1964)
- 4) シーマン、J. 非指示的セラピイの過程に関する研究 カウンセリングの基礎 伊東博訳編 誠信書房(1964)
- 5) 2)と同じ
- 6) 3)と同じ